

川

フォト劇場 (21)

写真が生まれるものがたり

帰り来る鮭を待つらむしなさかる越の大川秋風の
立つ
駒田文雄

川を見ていると、鮭の産卵、稚魚の放流に携
わった頃を思い出す。雪解け水の冷たい川へ
「また戻って来いよ」と数センチに育った稚魚
を園児や小学生と声をかけ合い放流する様子
が今も忘れられない。

海といふ未知の舞台へ踏み出さむ川は静かに息と
とのへる
立花純子

一雫の水から始まる川。岩間を駆けくんだり、
魚を育み、数多の川と出合いながら流れて行
く。人生みたいだ。海との出会いも然り。写
真の川面は空や建物を映すまでに静やか。大
舞台を前に息を、心を整えているようだ。



冬物の父の肌着をたずさえて秋の青さの魚野川越

ゆ

真島陽子

私の実家も嫁ぎ先も、魚野川沿いの町だ。実家へ行くときは、魚野川沿いの道を通り、必ず魚野川を越える。子どもの頃から見慣れている、八色大橋からの魚野川と雄大な八海山の景色が好きだ。

まちなかのささいなかなしみすくいつつ川は無言
で海へとつづく
高橋梨穂子

橋のない町に住んだことがない。川のない市町村は、あるにはあるらしいがかなり珍しい。鼻歌をうたうほどごきげんな日も、人前で泣きだしそうなほどつらいときも、川はただそこにあって、自然のままに流れている。